



解説動画

リストで使えるメソッド

リストは、登録するデータ数を決めておく必要がないため、全体の件数が分からないファイルデータやデータベース検索の結果などを格納するために、よく使われます。ファイルの場合は、1行分のテキストデータ、データベースでは、1件のレコードが要素になります。

このような用途で利用するために、配列にはない多数のメソッドが用意されています。

ここでは、そのなかでも使用頻度の高いメソッドをまとめて紹介します。この後で用例を解説しますので、まず、全体に目を通してください。

3

▼ リストで使える主なメソッド

戻り値型	メソッド	機能
boolean	add(e)	リストの末尾にeを追加する
void	clear()	すべての要素を削除する
boolean	contains(obj)	objがリストに含まれている時trueを返す
void	forEach(action)	すべての要素に対してactionを実行する
E	get(i)	i番目の要素を返す
boolean	isEmpty()	リストが空の時trueを返す
static List<E>	of(e...)	e...から成る不変リストを返す
E	remove(i)	i番目の要素を削除してその要素を返す
int	size()	リストにある要素の数を返す
void	sort(comparator)	キーを指定してリストを並べ変える
Stream	stream()	リストのストリームを生成して返す

※Eは要素の型です。forEach()とSort()は、12章、stream()は13章で解説します。

下線部を訂正しました。

リストを生成する **of()** メソッドだけはクラスメソッドなので、List.of() の形で使います。それ以外はインスタンスメソッドです。使い方を具体的に見てみましょう。JShell で実行しながら1つずつ解説します。

1. リストの作成と要素の追加

要素を追加する **add()** メソッドはすでに使いました。add(e) と書いて、オブジェクト e をリストに追加します。ここでは文字列を追加してみましょう。リストを作成して4つのデータを追加し、最後に全体を表示します。